



The TEX Report

日刊原料・鉄鋼貿易

記事の無断転送・転載・コピーは違法行為

掲載した記事およびデータは、テックスレポートが著作権を有します。弊社の許諾なく【転載・複製・転送】は著作権法に反します。

上記の違法行為が発覚した場合には、直ちに法的措置をとらせていただきます。

〔 鉄鋼貿易 〕	対韓来年度上期厚板、110 ~ 120 ドル上げを提示 -----	2
	来期積みスラブ商談、2 月以降にズレ込む -----	2
	原料高も普通鋼はサーチャージ制採用せず -----	3
	2003 年 11 月 主要鋼材国別・税関別輸入明細 -----	3
	11 月の H 形鋼地域別・積み出別輸出 -----	21
〔 石 炭 〕	米国の石炭コークス需給逼迫が深刻化 -----	15
	ネシア石炭産業の 2003 年の主な動き -----	7
	台湾電力による瀝青炭スポット入札の結果判明 -----	20
	中国一般炭の 1-3 月積み出荷が一段と悪化 -----	18
	JCD など日本側出資者が米国 LAXT から撤退 -----	15
	米国 EIA 統計、四半期別石炭輸出入実績 -----	6
	米国 EIA 統計、7 ~ 9 月の石炭輸出実績 -----	8
	米国 EIA 統計、7 ~ 9 月の石炭輸入実績 -----	6
〔 鉄 鉱 石 〕	新日鉄、粉鉱の 2004 年度価格で合意 -----	9
	04 年鉄鉱石価格、5 年連続欧州で値決め -----	10
	ケープ・サイズ船、年明けは記録づくめ -----	18
〔 銑鉄・鉄屑 〕	C S C、ボーナス入札は出会いつかず -----	17
	海光企業、日本 H 2 を 236 ドル前後 (C&F) で調達 -----	16
	2003 年 12 月の鉄スクラップに関するできごと -----	11
	< 税関別 > 日本の鉄鋼半成品の輸出実績 (2003 年 11 月) -----	12
〔 合 金 鉄 〕	2003 年マンガン系合金鉄の総括と新年展望 -----	4
	中国産合金鉄、Si680 ドル、SiMn950 ドル -----	1
	今週からオウトクンプ (株) に社名変更 -----	1
	2003 年 11 月のステンレス鋼材の輸入実績 -----	19
	04 年 1 月 12 ~ 13 日 LME・ニッケル価格 -----	1
	大阪商品取引所の Ni 価格 (1 月 14 日) -----	20
〔 社 告 〕	年鑑各種申込書 (残部僅か!) -----	22
	TEX Energy Report (英文版) を配信中 -----	23
	Application form of TEX Energy Report -----	24
	1 月 13 日付け (13 日夜に配信) の E-mail 版目次 -----	25

中国産合金鉄、Si680ドル、SiMn950ドル
 = フェロシリコン生産者、FOB650ドルで一線引く

2004年1月に入って中国産合金鉄(フェロシリコン、シリコマンガ)のオファ - 価格が上伸しているが、出遅れの感じのあったフェロシリコンがCIFトン当たり680ドルの売り唱えとなった。また、現物簿のシリコマンガは中国における鉄鋼ミルの危機感を反映した相場が出つつある。

フェロシリコン価格は2003年下期において唯一安定的な相場を展開してきた。しかし、シリコマンガの高値追いに刺激されたのと、2004年1月からの輸出増徴税の還付率修正(13%から8%)にともなう輸出コストの上昇を理由に12月からCIFトン当たり630 - 640ドルと30ドル方の値上げに転じた。

フェロシリコン生産者はこの流れに乗って2004年1月に入って輸出価格の統一的値上げを図ろうとしている。FOBトン当たり650ドルを輸出最低ラインに置いている。これに海上運賃を加算するとCIF680ドルのオファ - となる。フェロシリコンはシリコマンガと異なり中国内部でも需給の逼迫感はないのでシリコマンガの急騰に煽られた便乗値上げのきらいは残る。

一方、現物不足を告げるシリコマンガの価格は1週間単位、いや2 - 3日単位で相場が変化するという激しい中国国内の相場の流れに輸入インボ - タ - は翻弄されている。中国内部では1月に入ってスポット価格がトン当たり8,500 - 9,000人民元(1,029 - 1,089米ドル)になり、なお騰勢は緩んでいない。

日本の輸入契約は12月下旬に中国以外のソ - スからの契約でCIFトン当たり820 - 840ドル(2004年3 - 4月入着)の高値契約が成立した。当時は相当な高値と感じたが現状では契約して良かったとする商社が多いようだ。相場騰勢の先が見えないからだ。

一つには中国側が1月22日からの新節(旧正月)入りを控えて新規オファ - を提示しないことで心理的に価格が上伸している側面が散見される。一部、割り込みカ - ゴ(直積みカ - ゴ)でCIFトン当たり950ドルが出たようだ。一方、電炉ミルの円建て購入価格では1 - 2月納入で工場持ち込み価格トン当たり95,000円の契約が先週(関東・大手ミル)成立した。このため、単月契約のシリコマンガ価格は2月の場合、トン当たり10万円(1月8万円台)になる可能性が膨らんだ。

10万円の円貨価格はドルベ - スCIFに換算するとCIF840 - 850ドル相当となる。円貨でもドルベ - スで850ドルのレベルに来ている。(齊藤)

今週からオウトクンプ(株)に社名変更

= アベスタポラリット・ジャヤパン社

アベスタポラリット・ジャヤパン社(社長・吉田広邦氏、東京都港区虎ノ門5 - 11、アクトビル)はオウトクンプ株式会社と社名変更することになった。1月12日付けで関係取引先に連絡した。

これはオウトクンプ・グループがその中核事業であるステンレス部門・銅製品およびテクノロジー部門を統一したブランドに変更するのでこの一環として社名変更を行ったもの。

なお、ステンレス鋼生産メ - カ - のアベスタポラリット社もオウトクンプ・ステンレス社に社名変更を行っている。(齊藤)

04年1月12 - 13日 LME・ニッケル価格

LME ニッケル価格(カソード)

出来高		現物		3ヵ月先物		15ヵ月先物
		前場(Ask)	後場(Ask)	前場(Ask)	後場(Ask)	前場(Ask)
1月12日	封度換算価格	* \$7.171	\$6.908	\$7.159	\$6.894	\$6.166
	トン 当たり	* \$15.810	\$15.230	\$15.785	\$15.200	\$13.595
1月13日	封度換算価格	* \$7.003	\$6.719	\$6.964	\$6.701	\$6.025
	トン 当たり	* \$15.440	\$14.815	\$15.355	\$14.775	\$13.285

LME ニッケル在庫、2004年1月13日 23,094トン (前日比 -90)

* 印はセツルメント価格

鉄 鋼 貿 易

対韓来年度上期厚板、110～120ドル上げを提示

新日本製鉄など高炉各社は今週はじめから相次いで韓国の現代重工業など同国大手造船各社に対し2004年度上期(4～9月)積み造船用厚板価格を現行比110～120ドルアップを提示、商談を始めている。この価格が通れば同国向け厚板価格はFOB450ドル水準となり、1998年の最高時点のFOB450ドルに並ぶことになり、400ドル台に乗るのも6年ぶりとなる。

日本ミル各社が100ドル以上の値上げに踏み切った背景には、アジアの厚板価格が今期で中国向けの造船用厚板はFOB420ドルとなり、来期は同450ドルを超え450ドル相場になると予想される、円高が進んでいるために韓国向け厚板の安定的供給を確保するにはFOB450ドル相当の水準でなければ、来期以降鉄源が見つからない恐れが各社とも抱えている一などがある。

韓国向け厚板はこれまでも引き上げられてきているが、半年契約のために他の地域に比べ安価なものとなっている。これを是正するには各期契約に比較すると値上げ幅は大きいものとなるのはやむをえないことだ。

問題は円高が進んでいること。日本ミル各社は円高を直接の値上げ要因とはしていない。しかし、仮に1ドル=100円となった場合、現在の韓国向け厚板トッ当りFOB340ドルは34,000円でしかない。400ドルであっても40,000円に過ぎない。現在は大方の鋼材が国内向けよりも輸出向けの方が採算が上のために輸出向け優先の生産体制が各社ともっているが、現在以上に円高が進んだ場合、内外価格差が逆転し国内向け価格が上回ることもあり得る。そうなると、厚板なども国内優先策となり必ずしも韓国向け厚板輸出量を安定的に供給できるか疑問視されるところとなる。

これを打破するにはある程度国内向け価格よりも有利な輸出向けの条件が必要となり、价格的にはFOB450ドル程度は安定供給の必要条件と各社の輸出部門は判断したようだ。

輸出向け厚板価格は1998年にFOB451ドルとなったが、年末には韓国のPOSCO、東国製鋼の厚板ミルが相次いで稼動したことから、その後は大幅な値下がりを見せ02年には300ドルを割るなど悲惨な状態を呈した。しかし、現在は各社の厚板ミルはフル稼動を続けてもなお供給不足の状態となっている。このため、各社とも強気姿勢である。

来期もスラブ価格が一段高の気配である。そうなると、東国製鋼はさらに国内向け厚板価格の引き上げに動くことになる。そうなるとPOSCOも追随値上げに向かうものとみられる。このように来期は厚板価格が大幅に値上がりするのは避けられない情勢だ。韓国の造船各社は船価を2006年まで設定していることから厚板価格の引き上げには難色を示すのは必至であるが、最近では長期交渉が見直され1ヶ月程度で妥結している。今回も2月中旬で妥結できるか注目される。

来期積みスラブ商談、2月以降にズレ込む

来期(4～6月)積みスラブ商談が例年よりも遅れる模様である。要因は主要供給ソースであるブラジルの為替高とプレートの上昇にある。

今期のブラジルミルのスラブはアジア向けでC&F315ドル前後で決まっていた。しかし、各需要家はスラブ不足となったことから、インドネシアのクラカタウや台湾のイエルンなどが追加出荷を要請しC&F350ドルで手当てしたといわれる。

この35ドル前後の値上がりは実質プレートの上昇分でFOBベースは横ばいか精々5～10ドル上昇した程度のものである。プレートは昨年まではトッ12ドルとも17ドルともいわれたが、昨年後半には45ドル台となり、現在は70～80ドルとされる。今後も上昇することが予想されているために見通しが立たない以上、ブラジル側はC&Fベースでのオファーができないことになる。

さらにこのところブラジル通貨レアル高。これも落ち着きをみせなければ、オファーできないのが現状のようだ。このため、ブラジル側は来期商談の期限ギリギリまでオファーしないものとみられる。そうなると、需要家側は量的な不安を抱えることからパニック状態に陥ることも予想され、法外なスラブ価格が打出される恐れがある。

原料高も普通鋼はサーチャージ制採用せず

鉄鉱石が紛鉱で前年度比18%以上、原料炭も同20%以上と2004年度以降高炉は原料高にさらされるが、高炉各社は原料サーチャージ制の採用には興味を示していない。米国では電炉各社が昨年末からスクラップサーチャージを採り入れ20ドル程度上乗せしている。高炉でもUSスチールは30ドル上乗せしたとも伝えられる。

高炉の場合、USスチールのコークス炉工場が低揮発分炭が手に入らない(主力炭鉱が火災事故)のために不可抗力を宣言し、ルーージュ、ISG、ウエアトンなどへのコークス供給を停止したことからコークスサーチャージを適用したのではないかとの情報がある。

いずれにせよ、原料の大幅な値上がりをどう製品に転嫁するかが今後問題となるが、いまのところ高炉各社には米国ミルのようなサーチャージ制を採用しようという動きはない。日本の普通鋼の商慣習に馴染んでいないのが大きな理由とみられる。

2003年11月 主要鋼材国別・税関別輸入明細

単位：MT、千円/MT

輸入先	税関	数量	単価	輸入先	税関	数量	単価
電気鋼板				電気メッキ			
フランス	福岡	2	288.0	英国	東京	2	92.8
スイス	神戸	3	71.2	ベルギー	成田	1	450.7
ロシア	東京	21	122.0	イタリア	成田	2	409.8
ブリキ				カナダ	東京	7	167.2
韓国	東京	194	71.3	成田	成田	3	296.2
	千葉	466	67.0	米国	東京	154	157.2
	大阪	135	65.1	成田	成田	96	344.1
	堺	713	55.8	大阪	大阪	1	238.3
	石狩湾	38	71.0	関西空港	関西空港	9	245.6
台湾	東京	154	73.2	名古屋空	名古屋空	42	352.0
	大阪	276	74.1	名古屋	名古屋	11	104.9
英国	成田	1	1,358.0	南アフリカ	名古屋	64	97.1
フランス	東京	143	55.8	亜鉛メッキ計			
ドイツ	関西空港	0	721.3	韓国	東京	1,706	58.7
ティンフリー					千葉	4,496	55.3
韓国	東京	17	58.2		神戸	1,680	52.7
	千葉	297	64.8		尼崎	117	53.2
	大阪	158	63.4		大阪	2,598	57.1
	門司	47	70.9		堺	3,764	58.6
	長崎	54	64.7		名古屋	1,668	50.9
台湾	東京	39	65.9		戸畑	366	52.8
	千葉	32	64.5	中国	堺	12	96.5
	大阪	196	64.8	台湾	千葉	485	55.0
	名古屋	19	68.3		大阪	544	55.6
溶融メッキ				英国	東京	2	92.8
韓国	東京	605	55.2		名古屋	14	141.0
	千葉	2,885	52.5	ベルギー	成田	1	450.7
	神戸	1,680	52.7	イタリア	成田	2	409.8
	尼崎	117	53.2	カナダ	東京	7	167.2
	大阪	1,540	54.4		成田	3	296.2
	堺	1,327	53.5		東京	154	157.2
	名古屋	1275	50.8		成田	158	333.7
	戸畑	194	49.8		横浜	4	238.8
中国	堺	12	96.5		大阪	1	238.3
台湾	千葉	485	55.0		関西空港	9	245.6
	大阪	544	55.6		名古屋空	72	352.0
英国	名古屋	14	141.0	ブラジル	名古屋	11	104.9
米国	成田	62	317.6	南アフリカ	名古屋	64	97.1
	横浜	4	238.8	表面処理鋼板			
電気メッキ				韓国	東京	167	132.9
韓国	東京	1,101	50.6		千葉	799	70.9
	千葉	1,611	60.1		福山	22	74.2
	大阪	1,058	61.7		大阪	406	82.6
	堺	2,437	61.3		堺	2,045	65.1
	名古屋	393	51.2		名古屋	838	72.9
	戸畑	173	56.1		清水	5	268.3

(単価はCIF：単価は単純に金額を数量で割ったもの)

2003年マンガン系合金鉄の総括と新年展望

= 世界のマンガン供給基地、中国の変貌で市況一転

あらゆる鉄鋼原料のなかで長年抜群の安定力を誇ってきたマンガン系合金鉄のうち輸入依存度の高いシリコマンガンに供給ピンチの「赤サイン」が点滅している。2003年の世界の粗鋼生産は推定9.6億ト、前年比約7%増を記録した。鉄鋼向け需要の伸びに対してマンガンの供給はフェロマンガン、シリコマンガンとも問題を内在しているが、軌道は分かれている。

シリコマンガンはとくに鉄鋼生産増の急激な中国における需給変貌が前年より潜在していた安定供給に関する懸念をさらに増幅させている。相場がスパイク状態になっているメタル、すなわちニッケル、クロームおよびマンガンの中では今一番、需要家が強い関心を払っているのはシリコマンガンである。長期にわたる市況の低迷が2002年に漸く終止符を打ち、底入れを果たしたマンガン系合金鉄(フェロマンガン、シリコマンガン)であったが、鉄鋼生産の急激な伸長に対応出来る体制が未整備のままになっている。

むしろ2003年は供給面で逆に最初、フェロマンガンに問題が生じた。フランス、エラメット社は2003年12月10日をもって仏ブローニュー工場(高炭素マンガン、年産30万ト能力)の操業を閉鎖した。さらにこれより先に子会社である中国の紹興鉄合金廠(浙江省、高炭素マンガン、年産能力6.5万ト)におけるフェロマンガン生産を2003年4月に中止した。また、中国では新余鉄鋼(江西省)が2003年3月に高炉によるフェロマンガン生産(年産能力15万ト)を中止し、銑鉄生産に転換した。このほか、陽泉鋼鉄廠(山西省)が高炉吹き精錬でのフェロマンガン(年産能力4万ト)を生産中止している。これら高炉吹きによるフェロマンガンの減産規模は2003年で年間24万トに達した。

中国におけるフェロマンガンの生産停止、銑鉄への生産転換はマンガン製品の採算割れと還元材であるコークスの価格高騰、入手難に対応したものである。また、フランス、エラメット社のブローニュー工場の高炉3基の操業停止は新設した日産700ト能力の大型新鋭高炉の長年(2001年1月新規稼働)にわたる操業不調が起因している。

供給力を増強したのはブラジル、リオドセ社で2003年1月にノルウェーのエルケム社より買収したラナメタル工場(フェロクローム生産)をマンガン系合金鉄工場に改修した。2003年6月、12月にそれぞれ電炉1基、合計2基の再稼働を果たした。マンガン系合金鉄の生産能力は年間10万トとなる。当面、電炉1基はシリコマンガン、後の1基はフェロマンガンの生産に集中している。

2003年の世界のマンガン系合金鉄の生産量は不明だが、仏エラメット社の2002年度年次報告によると同社は2002年のマンガン系合金鉄の鉄鋼向け消費量を805.4万ト(欧州・CIS31.5%、北米10.0%、アジア・中国46.5%、その他12.0%)とみている。粗鋼9.6億トの増産の流れからみてマンガン系合金鉄の需要もそれなりに伸びている。この需要増大のトレンドのなかで中国、フランスというマンガン生産国の減産は需給に大きなインパクトをもたらした。

一方、中国ではマンガン系合金鉄の主要をなすシリコマンガンの供給に対しても齟齬が生じた。1トのシリコマンガン生産に必要な電力消費は3,500KWである。フェロシリコン、金属シリコンの消費電力に比較して2分の1あるいは3分の1と小規模であるシリコマンガンである。しかし、生産の拠点が集中している西南3省(四川省、貴州省、雲南省)における2003年下期の電力供給の削減は前年同期より更に厳しく、また、2003年上期よりも削減幅が大きい。

「西電東送」という中国政府の電力などエネルギー不足に対する緊急政策は、発展の急速な華東沿岸地区での産業向け電力を確保するとの命題のもとに強行されている。しかし、これら西南3省は電力多産地区として数年前には「大西部計画」の下に過疎地区の産業開発が進行する予定であったが、状況は一転した。中国政府の場当たり的な産業政策の咎めがマンガン産業、ひいては合金鉄産業を直撃している。西南3省の合金鉄工場向けの電力供給は2002年下期は契約量に対して40 - 60%供給であったが、合金鉄生産者は2003年下期現在10 - 20%という低率パーフォーマンスに甘ん

(次頁につづく)

じている。中国全土の2003年における電力需要は前年比15%増加したと観測されているが、このため供給不足がさらに拡大した。

中国の合金鉄生産者協会首脳はすでに2003年春に粗鋼生産が年産2億トンを越えると合金鉄の生産はその保有する能力を凌駕するとの警告を発していた。もっとも、まだ、膨大な輸出能力を織り込んでの需要想定であり、このことは輸出を圧縮するならば中国々内の鉄鋼ミル向け合金鉄供給はまだ安全との余裕を見せていた。

2003年11月ごろより様相は一変した。国内の鉄鋼ミルが輸出向け合金鉄の生産者に対して需要量確保のため輸出価格より高値を支払うようになったからである。また、長期の取引契約の締結で供給安定を期す政策にでている。シリコマンガンの中国々内の取り引き価格は以下の通りウナギ上りとなった。人民元ベースでのスポット市場価格の推移(トン当たり)をみると 2003年11月5,000元(609米ドル) 2003年12月初旬5,700元(686米ドル) 2003年12月中旬7,000元(843米ドル) 2003年12月下旬7,700 - 8,000元、 2004年1月中旬8,500元(1,036米ドル) - である。(注、高炭素フェロマンガンのスポット価格は2004年1月で8,600元(1,060ドル))

中国では2004年の粗鋼生産が2.6億トンとなるとマンガン系合金鉄の消費量は年間55 - 60万トン増大すると想定している。ちなみに2003年は粗鋼2.2億トンで消費量は国内のみで45 - 50万トン増大したとみている。中国の合金鉄生産者協会首脳が年初想定していた粗鋼2.1億トンに対応する2003年のマンガン系需給は 国内需要220万トン、 輸出60万トン、 生産280万トンであった。

マンガン系合金鉄の世界需給の足かせになるのが原料マンガン鉱石の海外山元からの輸送となる公算が大きい。海上運賃の異常高騰が西アフリカ、ブラジルからの遠距離ソースからの輸送に支障が生じよう。2003年(暦年)に中国が輸入したマンガン鉱石は270万トン(推定)に達した。2002年に較べて約60万トン増大した。もともと中国は低品位鉱石、日本、韓国は高品位鉱石の輸入と需要の棲み分けは出来ているが年間のマンガン鉱石の貿易量は850 - 870万トンと推定され、中国の60万トン増というインパクトは今後の市況に影響をもたらす可能性は否定できない。

中国の海関統計によると2003年上期(1-6月)のマンガン鉱石の輸入価格は平均CIFトン当たり76.47ドル、西アフリカからの輸入はガボンからCIF81.07ドル(数量19万トン) ガーナからはCIF50.36ドル(数量13.7万トン)となっている。フレート市況が高騰している現在、西アフリカからの海上運賃はハンデー・サイズ本船でトン当たり70 - 80ドルとなる可能性がある。(注、2003年上期の入着鉱石は2002年下期の契約が多く、まだ、フレート高騰の影響を受けていない。)

2004年上期に入荷するマンガン鉱石は海上運賃の高騰をまともに受けており、中国をして原料入手の困難に遭遇することになる。国内のマンガン系合金鉄を生産するための原料手当てが懸念される事態になっている。マンガン系合金鉄の生産に最適といわれていた中国に 電力削減、 コークス不足、 原料鉱石の手当て難~という三重苦が迫っている。

翻って日本の2003年におけるマンガン系合金鉄の需給を展望するとシリコマンガンについては圧倒的な輸入依存体質にあることが判明する。フェロマンガンは国内生産がなお健在であるが、それでも高炭素フェロマンガンはともかく中・低炭素フェロマンガンは中国産の金属マンガンの価格高騰と需給逼迫の影響を間接的に受けやすい体質にある。

2003年1 - 9月期のマンガン系合金鉄の日本の需給状況は以下の通りである。(カッコ内は2002年通年)

(1) 高炭素フェロマンガン = 国内生産277,236トン(373,392トン) 消費247,229トン(332,336トン) 輸入72,062トン(43,892トン) 粗鋼生産82,528千トン(107,748千トン)

(2) シリコマンガン = 国内生産55,542トン(87,445トン) 消費241,085トン(302,202トン) 輸入213,075トン(254,269トン) 電炉鋼生産21,778千トン(29,216千トン)

(3) 中・低炭素フェロマンガン = 国内生産88,386トン(101,236トン) 消費46,117(75,744トン) 輸入7,620トン(14,179トン)

シリコマンガンは消費量の88%を輸入に依存、高炭素フェロマンガンは同26%、中・低炭素フェ

(次頁につづく)

ロマンガンは8.6%の輸入依存度である。シリコマンガンには危機感が増大している。

先週、日本の最大手電炉ミルは輸入シリコマンガンに対して内税込みト、当たり10万円(2004年1-2月納期)で現物を手当てした。中国では8,500人民元(1,062米ドル)の相場が出現した。アジアで1,000ドル相場となったシリコマンガンの異常価格そのものは豊水期で電力供給が緩和の方向を見せる2004年春には多少の修正相場が誕生する可能性はある。ただ、長期的なトレンドではなお不安定な部分が大きく残る。(斉藤)

米国 EIA 統計、四半期別石炭輸出入実績

米国エネルギー省の情報管理局(Energy Information Administration : EIA)によると、同国の1996年以降の四半期別石炭輸出入実績は別表のとおりである。

(in 1000 ST)

Year	January - March		April - June		July - September		October - December		Year to Date	
	Exports	Imports	Exports	Imports	Exports	Imports	Exports	Imports	Exports	Imports
1996	20,516	1,968	23,039	1,688	23,504	2,423	23,414	2,036	90,473	8,115
1997	20,011	1,331	20,603	1,708	22,354	2,222	20,576	2,226	83,544	7,487
1998	18,621	1,839	20,749	2,193	19,898	2,145	18,780	2,547	78,048	8,724
1999	12,961	2,248	14,449	2,098	16,075	2,387	14,991	2,357	58,476	9,089
2000	13,598	2,815	14,379	2,745	15,799	3,562	14,713	3,391	58,489	12,513
2001	11,841	3,910	13,500	4,124	11,655	6,047	11,671	5,707	48,666	19,787
2002	9,253	4,000	11,043	3,857	9,257	4,654	10,050	4,365	39,601	16,875
2003	8,518	4,954	11,450	6,393	12,094	7,051	-	-	-	-
2003-2002	-735	954	407	2,536	2,837	2,397	-	-	-	-
03/02 (%)	-7.9	23.9	3.7	65.8	30.6	51.5	-	-	-	-

(US\$/ST)

Year	January - March		April - June		July - September		October - December		Year to Date	
	Exports(FAS)	Imports(CIF)	Exports(FAS)	Imports(CIF)	Exports(FAS)	Imports(CIF)	Exports(FAS)	Imports(CIF)	Exports(FAS)	Imports(CIF)
1996	41.77	34.26	40.78	33.07	40.53	33.56	40.08	34.15	40.76	33.78
1997	41.72	33.85	40.80	35.26	39.42	33.69	40.40	34.49	40.55	34.32
1998	41.66	33.98	38.49	31.43	37.83	32.38	37.73	31.38	38.89	32.18
1999	40.55	30.86	36.70	30.06	33.97	30.01	35.54	32.10	36.50	30.77
2000	35.82	29.81	34.31	31.16	35.03	29.71	34.48	29.90	34.90	30.10
2001	35.47	32.00	35.88	33.84	38.22	34.04	38.50	35.46	36.97	34.00
2002	39.57	36.17	40.77	35.83	42.93	35.38	38.58	34.78	40.44	35.51
2003	39.72	31.65	35.67	31.17	33.19	31.23	-	-	-	-
2003-2002	0.15	-4.52	-5.10	-4.66	-9.74	-4.15	-	-	-	-
03/02 (%)	0.4	-12.5	-12.5	-13.0	-22.7	-11.7	-	-	-	-

米国 EIA 統計、7～9月の石炭輸入実績

米国エネルギー省の情報管理局(Energy Information Administration : EIA)によると、同国の2003年7～9月ならびに1～9月におけるソース別石炭輸入実績は別表のとおりである。

(in ST)

Coal Exports Total	Jul-Sep 2003	Apr-Jun 2003	Jul-Sep 2002	Year to Data 2003	Year to Data 2002	2003-2002	03/02 (%)
North America Total	576,309	504,770	553,266	1,486,066	1,591,651	-105,585	-6.6
Canada	576,211	504,587	552,989	1,485,739	1,549,313	-63,574	-4.1
Dominican Republic	98	183	277	327	506	-179	-35.4
Mexico	0	0	0	0	41,832	-41,832	-
South America Total	5,930,169	5,036,649	3,545,078	14,902,275	9,183,307	5,718,968	62.3
Argentina	0	0	0	23	0	23	-
Colombia	4,392,892	3,640,986	2,476,570	11,349,941	6,575,170	4,774,771	72.6
Ecuador	0	52,191	0	52,191	0	52,191	-
Venezuela	1,537,277	1,343,472	1,068,508	3,500,120	2,608,137	891,983	34.2
Europe Total	606	46,630	0	47,236	165,731	-118,495	-71.5
Italy	0	0	0	0	121	-121	-
Netherlands	0	152	0	152	0	152	-
Poland	0	0	0	0	77,817	-77,817	-
Russia	0	46,455	0	46,455	87,586	-41,131	-47.0
United Kingdom	606	23	0	629	207	422	203.9
Asia Total	516,789	656,771	331,199	1,746,714	851,567	895,147	105.1
China	30,846	92,308	18,364	129,086	24,127	104,959	435.0
India	0	0	376	0	1,882	-1,882	-
Indonesia	485,943	564,462	312,459	1,617,627	825,558	792,069	95.9
Syria	0	1	0	1	0	1	-
Oceania & Australia Total	27,448	148,501	224,281	216,461	641,354	-424,893	-66.2
Australia	27,448	96,648	224,281	163,785	641,354	-477,569	-74.5
New Zealand	0	51,853	0	52,676	0	52,676	-
Africa Total	0	0	0	0	77,314	-77,314	-
South Africa	0	0	0	0	77,314	-77,314	-
Total	7,051,321	6,393,321	4,653,824	18,398,752	12,510,924	5,887,828	47.1

ネシア石炭産業の2003年の主な動き

= 新興勢力の台頭で石炭産業は新時代へ

インドネシアでは、BHPピリトン社やリオ・ティント社など大手外資企業が石炭生産事業から撤退する一方、タイの大手エネルギー会社であるバンブー社(Banpu Public Co. Ltd.)が急速に勢力を伸ばしてきている。

バンブー社は現在、インドネシアにおいては子会社であるジョロン・バルタマ・グレストン社(Jorong Barutama Greston)、インドミンコ・マンデリ社(PT Indominco Mandiri)、キタディン社(PT Kitadin)を通じて石炭事業を積極的に展開している。2003年の石炭生産予定量はジョロン社が300万トン、インドミンコ社が600万トン、キタディン社が300万トンで、これら3社を合計すれば1200万トンとなる。

バンブー社は新規炭鉱を開発することなどによって、インドネシアにおける石炭生産量を2006年段階で2000万トン以上に拡大する。同社の2003年における石炭生産予定量は1450万トンであることから、2003年比では生産量を600万トン以上も増やす計画だ。

バンブー社が開発を予定しているのはカリマンタンのトゥルバインド(Trubaindo)炭鉱で、同炭鉱では2004年末に石炭生産が開始され、2006年にはフル・スケースでの500万トン/年態勢が確立される。同社はさらにインドミンコ社の石炭生産量を2004年は850万トンに引き上げることにしている。

インドネシアでは2004年以降、石炭公社の民営化が促進される予定であり、これまで大手外資企業や石炭公社によって支えられてきた同国の石炭産業は新しい時代を迎える。その核となるのがブミ・リソースやバンブーなどの新興勢力である。

アジアの石炭輸出国では、中国が2000年代に入り、近距離ソースである利点を生かした価格競争力を武器にアジア向け一般炭輸出を大きく伸ばすことで、石炭輸出を飛躍的に増大させた。同国の石炭輸出は2001年には9千万トンを超え、一気に豪州に次ぐ世界第2位の石炭輸出国に躍り出した。

しかしインドネシアも中国の影に隠れて目立たないが、石炭輸出を着実に増やしている。現に同国の2002年における石炭輸出量は7355万7千トン(前年比679万9千トン=10.2%増)であり、豪州・中国に次ぐ世界第3位の石炭輸出国に成長している。

石炭輸出国としての中国とインドネシアを比較すると、中国は石炭生産量の殆どが国内で消費され、輸出に振り向けられるのは生産量の10%以下に過ぎない。これに対しインドネシアは石炭生産量の70%以上が輸出されている。

中国では、高い経済成長率を背景に国内での石炭需要が生産の伸びを上回るペースで急速に増加しているため、石炭輸出余力が低下してきている。同国では今後、内需が更に増大することから、石炭輸出が減少に転じる可能性もある。少なくとも石炭輸出が大きく伸びることはないであろう。

これに対しインドネシアも今後は内需が急速に増加するが、同国では既存炭鉱の拡張や新規炭鉱の開発が積極的に進められているため、内需が増大するとしても、輸出を伸ばすことは十分可能である。

インドネシアではアジア地域の一般炭マーケット急回復を受け、アダロ社やKPC社、アルトミン社などの大手生産者が輸出拡大を図るため増産に乗り出しているため、2~3年後には石炭輸出が1億トンの大台を突破するであろう。従って近い将来、同国が中国を抜いて世界第2位の石炭輸出国となる公算が大きい。

ちなみにインドネシアは石炭を殆ど輸入していないのに対し、中国は年間1千万トン以上の石炭を輸入している。このため輸出量から輸入量を差し引いた石炭の“純輸出量”では、既にインドネシアが中国を上回っている。

ただインドネシア炭は炭質的に亜瀝青炭が多く、現在開発が進められている炭鉱も殆どが亜瀝青
(次頁につづく)

炭鉱である。このため同国では今後、亜瀝青炭の生産量が大きく増加するものの、瀝青炭(高品位一般炭)の生産は頭打ちになってくる。従って同国の石炭輸出は亜瀝青炭が中心となってこよう。

またインドネシアでは、2004年から新規の非微粘結炭が輸出マーケットに参入する。中央カリマンタン産の新規非微粘結炭であるMGM炭が伊藤忠商事を通じて日本などに輸出されるもので、中央カリマンタン産の石炭が輸出されるのは同炭が初めて。

MGM炭鉱は、中央カリマンタン州 Kabupaten Barito Utara (Barito 河口の約600m上流)に位置する露天掘り炭鉱で、同国のマルンダ・グラハミネラル社 (PT.Marunda Grahamineral : MGM社)が炭鉱の開発を進めている。伊藤忠商事はMGM社の株式20%を保有している。

MGM炭鉱の石炭生産予定量は2004年が100万トン/年、2005年が120万トン/年、2006年が180万トン/年で、2007年以降は生産量がフル・スケールの200万トン/年に引き上げられる計画だ。

MGM炭の特長は灰分ならびに硫黄分が低いことに加え、粘結性を備えていることである。このため同炭は、主としてコークス配合用の非微粘結炭として日本の高炉各社などへ出荷される予定である。

インドネシアでは今後、MGM社以外にもPT Garda Tujuh PT Mandiri Perkasa Pt Kalimantan Eneri Lestari などの新規炭鉱が相次いで石炭生産を開始する予定である。(完) (宮元)

米国EIA統計、7～9月の石炭輸出実績

米国エネルギー省の情報管理局 (Energy Information Administration : EIA)によると、同国の2003年7～9月ならびに1～9月における仕向け国別石炭輸出実績は別表のとおりである。

Coal Exports Total	Jul-Sep 2003	Apr-Jun 2003	Jul-Sep 2002	Year to Data 2003	Year to Data 2002	2003-2002	03/02 (%)
North America Total	7,324,868	6,283,855	4,609,994	16,098,838	12,275,492	3,823,346	31.1
Canada ¹	7,065,867	5,956,990	4,299,499	15,139,227	11,565,352	3,573,875	30.9
Dominican Republic	4,705	31,237	593	35,942	47,080	-11,138	-23.7
Mexico	253,942	294,902	286,164	874,528	627,780	246,748	39.3
Others	354	726	23,738	49,141	35,280	13,861	39.3
South America Total	660,252	997,961	865,544	2,695,088	2,599,993	95,095	3.7
Argentina	101,814	47,934	1,039	198,756	89,826	108,930	121.3
Brazil	544,679	937,500	860,271	2,467,011	2,484,097	-17,086	-0.7
Others	13,759	12,527	4,234	29,321	26,070	3,251	12.5
Europe Total	3,709,480	3,856,178	3,623,053	11,813,730	12,364,808	-551,078	-4.5
Belgium	276,726	649,813	733,437	1,460,348	1,832,709	-372,361	-20.3
Bulgaria	74,666	74,951	117,513	441,025	161,518	279,507	173.1
Finland	169,876	122,565	123,538	292,441	123,538	168,903	136.7
France	231,921	424,807	159,068	1,025,061	752,954	272,107	36.1
Germany	154,843	319	892	227,092	958,094	-731,002	-76.3
Iceland	15,467	23,772	20,940	61,274	67,038	-5,764	-8.6
Ireland	-	238,216	138,509	238,216	434,194	-195,978	-45.1
Italy	614,508	714,045	550,186	2,147,840	2,605,989	-458,149	-17.6
Netherlands	425,602	577,702	386,329	1,500,248	1,352,277	147,971	10.9
Portugal	252,913	-	-	390,715	126,319	264,396	209.3
Spain	511,932	364,883	527,419	1,381,454	1,547,727	-166,273	-10.7
Sweden	164,835	83,427	164,314	302,331	375,025	-72,694	-19.4
Turkey	361,088	272,602	169,948	974,557	333,505	641,052	192.2
United Kingdom	298,832	307,433	527,080	1,127,206	1,649,173	-521,967	-31.7
Others	156,271	1,643	3,880	243,922	44,748	199,174	445.1
Asia Total	13,283	15,533	90,575	49,491	1,658,341	-1,608,850	-97.0
Israel	-	22	-	22	130,715	-130,693	-
Japan	344	1,220	339	4,392	1,252,267	-1,247,875	-99.6
S.Korea	8	214	84,030	446	231,126	-230,680	-99.8
Others	12,931	14,077	6,206	44,631	44,233	398	0.9
Oceania & Australia Total	44	44	2,754	510	2,973	-2,463	-82.8
Others	44	44	2,754	510	2,973	-2,463	-82.8
Africa Total	386,017	296,227	64,634	1,403,863	650,050	753,813	116.0
Algeria	141,813	70,539	62,931	340,877	192,236	148,641	77.3
Egypt	239,282	152,981	1,703	631,174	302,344	328,830	108.8
Morocco	-	68,728	-	420,505	140,166	280,339	200.0
Others	4,922	3,979	-	11,307	15,304	-3,997	-26.1
Total	12,093,944	11,449,798	9,256,554	32,061,520	29,551,657	2,509,863	8.5

新日鉄、粉鉱の2004年度価格で合意

= 塊鉱値決めは週内の早期妥結を目指す

新日本製鉄は14日、2004年度鉄鉱石値決め交渉のうち、粉鉱の新価格について豪州のBHPピリトン社、ハマスレー・アイアン社、ブラジルのリオドセ社との間で合意した。粉鉱の新価格は豪州の代表的なヘマタイト粉鉱で前年度比18.62%アップの35.99^円/DMTU(fob)、また、リオドセの代表的なSSF(南部システム焼結用粉鉱、イタピラ粉鉱)が同18.62%アップの32.79^円/DLTU(fobツパロン)などとなった。

欧州市場で13日(日本時間13-14日)、リオドセ・インターナショナル社と、世界最大の一貫製鉄会社アルセロール社が前年比18.62%アップで決着したのを受けて、新日鉄は14日午前、豪州、ブラジルの鉄鉱石会社3社と急きょ値決めに入り、新価格で合意した。JFEスチール社を始めとする各社も同日、値決めを行い、順次合意した。

一方、塊鉱については現在、早期妥結を目指して鋭意、交渉が進められている。また、豪州ではローブ・リバー社がきょう15日に高炉各社を訪れ値決め交渉に入る。

なお、新日鉄は2004年度以降、対豪州の取引単位を従来の「ロング・トン」から「メトリック・トン」に変更した。

2004年度の鉄鉱石新価格

単位：^円/DLTU, FOB

	銘柄	鉱種	2004	2003	2002	前年度比 %
豪州						
ハマスレー・アイアン	ハマスレー	粉鉱	36.57	30.83	28.28	+18.62%
	Hイヤンディ	粉鉱	34.38	28.98	26.58	
BHPピリトン	Mtニューマン	粉鉱	36.57	30.83	28.28	
	BHPヤンディ	粉鉱	34.38	28.98	26.58	
ブラジル						
リオドセ	イタピラ	粉鉱	32.79	27.64	25.36	+18.62%
	カラジャス	粉鉱	33.29	28.14	25.86	+18.30%

< 原料高、業界全体で3,000億円のコスト増 >

今回、先に決着をみた石炭に続き、鉄鉱石ではまず粉鉱価格が妥結したが、新価格となった36.57^円は過去最高レベル。値上げ率も過去5指に入るレベルとなった。

2004年は原料、輸送費など資源コストが全体に大幅アップとなっている。鉄鉱石、石炭、ニッケル、クロムや非鉄(亜鉛、アルミ)など各産品価格がいずれも最高レベルで推移しており、今後、各社で、生産コストの引き下げが大きな検討課題となった。

大幅な値上げとなった鉄鉱石(前年度比550億円相当)石炭(同700億円相当)のほか、ニッケル、クロム、亜鉛、鉄スクラップなど副原料、製鋼原料費を含め、業界全体で3,000億円(関係者試算)のコスト・プッシュになるとみられている。

高炉各社は今後、塊粉使用比率、焼結比率、ペレットの使用割合、コークス使用割合などの生産構造や、輸送契約、原料の輸送距離(近距離、遠距離のフレート格差)などを見直し、同作業が、今後、一段と進展するものとみられている。

(佐藤)

04年鉄鉱石価格、5年連続欧州で値決め

= アルセロールとリオドセ間で 18.62% アップで決着

2004年の鉄鉱石価格が欧州市場で決着した。指標銘柄となるブラジルのカラジャス粉鉱が前年比 18.62% アップの 37.90 円 / DMTU (ドライ・メトリック・トン・ユニット) で決着した。欧州市場の第二回目の価格交渉が 12 日から始まったが、再開 2 日目で合意した。

リオドセは 2004 年(1 - 12 月) アルセロール社に対して年間 2,200 万トンの鉄鉱石を供給する予定。

< 欧州市場が 5 年連続してファースト・セッター >

アルセロール社と、リオドセ社との決着は 2 年連続。また、5 年連続して欧州市場がファースト・セッターを演じた。値上げ率、新価格ともに、ここ 20 年間では過去最高となり、中国を始めとするアジア各国の鉄鉱石需要増を映した。

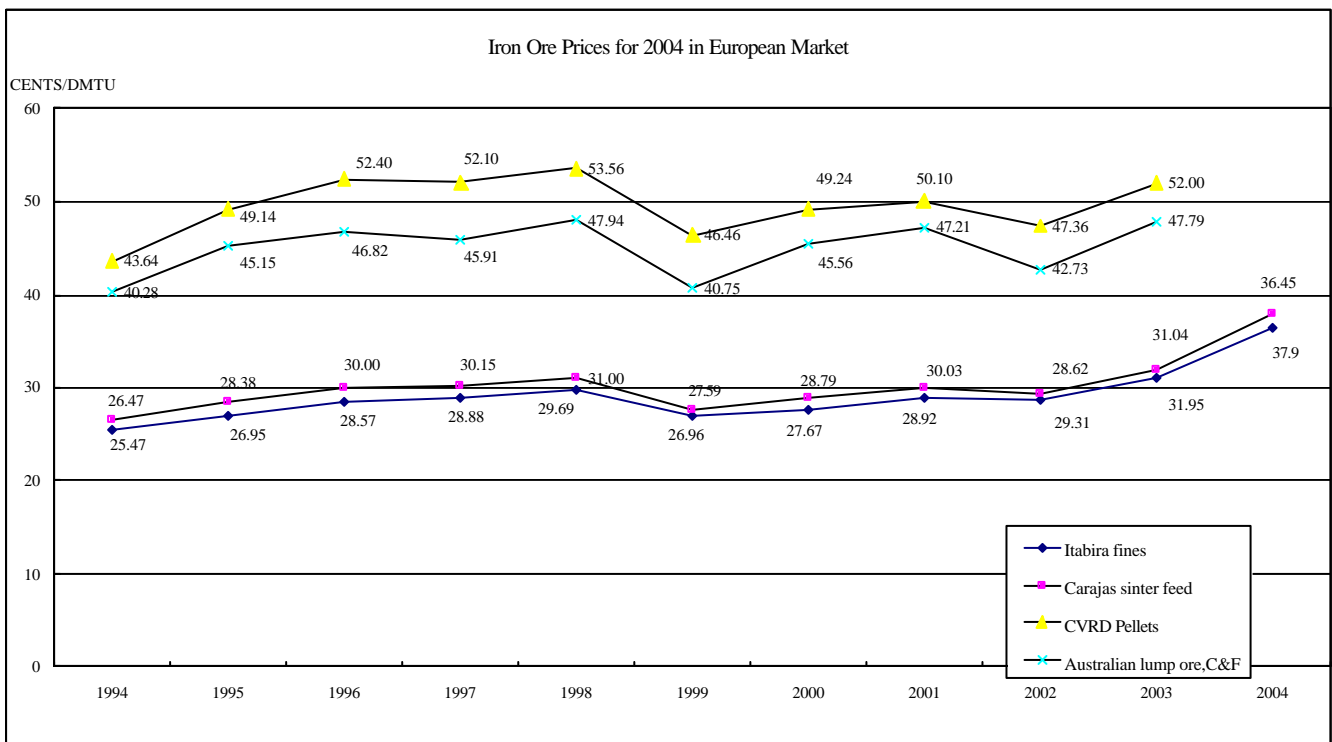
過去5年間のファーストセッター

交渉年次	決着日	ファーストセッター
2000年	1月27日	ユジノ-ル(仏) - SNIM(モ-リタニア)
2001年	3月20日	ILVA(イタリア) - リオドセ(ブラジル)
2002年	5月29日	ティッセ-グループ(独) - リオドセ
2003年	5月16日	アルセロール(欧) - リオドセ
2004年	1月13日	アルセロール(欧) - リオドセ

(1) 鉄鉱石

鉄鉱石	2001年		2001年第1四半期		2002年第1四半期	
	1,000トン	シェア(%)	1,000トン	シェア(%)	1,000トン	シェア(%)
リオドセ	93,432	65.0	21,394	64.7	25,787	67.8
Socoimex	-	-	-	-	-	-
Samitri	5,397	3.8	3,657	11.1	-	-
Samarco	893	0.6	195	0.6	336	0.9
Urucum	627	0.4	162	0.5	233	0.6
Ferteco	10,418	7.3	-	-	2,503	6.6
MBR	-	-	-	-	1,384	3.6
QCM	-	-	-	-	68	0.2

(佐藤)



2003年12月の鉄スクラップに関するできごと

日付	できごと
1日	12月F B、18 ^{ドル} 上昇 アメリカ大手自動車メーカーによるファクトリー・バンドル(FB)販売競争入札が11月末に行われ、12月払い出し価格は加重平均で前月に比べロングトン当たり18 ^{ドル} 上昇した。F B 価格の上昇は6ヶ月連続となり、1974年10月の過去最高値を更新した。
2日	東鉄、4工場で値上げ 東京製鉄は3日より4工場で鉄スクラップを値上げした。岡山工場では、海上購入分についてシュレッダーAを600円、その他の品種を500円、陸上購入分について全品種500円値上げし、特級=20,500円(海上)、20,000円(陸上)とした。同社九州工場と高松工場では海上、陸上購入分ともにシュレッダーAを800円、その他の品種を500円値上げした。同社宇都宮工場では、シュレッダーAを800円、その他の品種を500円値上げし、特級炉前20,000円とした。
8日	鈴徳、年内にも中田屋をグループ化 鈴徳(鈴木孝雄社長)はこのほど、年内にも中田屋の株式の半数を取得しグループ化することを発表。事業所の統廃合や人員削減は行わない考えで、経営統合により総合リサイクル業としての事業基盤強化を目指す。中田屋の新会長には鈴木孝雄・鈴徳社長が兼務して就任、新社長には大須賀正・中田屋会長兼グループCEOが就任する。
8日	3地区平均17,211円 日本鉄源協会(平尾隆会長)が行った鉄スクラップのモニター調査(H2、炉前価格)によると、12月1週の関東、中部、関西の3地区平均価格は17,211円(前週比659円アップ)となり17,000円を突破した。
9日	普電工、減産強化を要望 普通鋼電炉工業会の高島成光会長は、「(小棒市況は)大変厳しい状態にある」との認識を示し、1-3月期へ向け「(7-9月期ベースで)例えば30%程度の大幅減産を先行して行う必要がある」と強調。
10日	東鉄、4工場で値上げ 東京製鉄は同社で購入する鉄スクラップの価格を11日購入分より全工場全品種300円値上げ。特級の新価格は岡山=20,800円(海上)、宇都宮=20,300円となった。
10日	中国「その他屑」輸入100万 ^{トン} を突破 中国の海関統計によると、9月の「その他スクラップ」輸入量は104.1万 ^{トン} に達し、単月の輸入量が100万 ^{トン} を突破した。1-9月の「その他スクラップ」輸入量は累計は638.9万 ^{トン} 、年率で851.8万 ^{トン} と過去最高水準で推移。
16日	関鉄源、平均20,100円(FAS)で1.6万 ^{トン} 販売 関東鉄源協同組合は16日、輸出を目的とした鉄スクラップ販売入札を行ったところ、これに10社16件の応札が寄せられた。一番札は20,310円(FAS)の高値となり、これを含め3番札まで計16,000 ^{トン} が販売された。販売されたのは、A社=20,310円(5,500 ^{トン})、B社=20,000円(5,500 ^{トン})、C社=19,980円(5,000 ^{トン})で、落札平均価格は20,100円。前月に比べ2,000円値上がりし、過去最高値を大幅に更新した。
16日	東鉄、鋼材を値上げ 東京製鉄は1月積み鋼材販売価格を全品種、値上げすると発表。値上げ幅は2,000-3,000円で、この結果、H形鋼=53,000円(前月比2,000円アップ)、異形棒鋼=42,000円(同2,000円アップ)、ホットコイル=49,000円(同3,000円アップ)などとなった。
16日	東鉄、700円値上げ 東京製鉄は16日、同社4工場で購入する鉄スクラップの価格について、17日購入分より全品種700円値上げすることを決めた。この結果、各工場の特級の新価格は岡山=21,500円(海上)、21,000円(陸上)、九州(海・陸)=21,000円、高松(海・陸)=19,700円、宇都宮=21,000円となった。
16日	中国鋼鉄、ボーナス251 ^{ドル} (C&F)で発注 台湾の中国鋼鉄(CSC)は16日、04年3月20日までの高雄引き渡しを条件に、ボーナス・スクラップ3万-3.3万 ^{トン} の競争入札を実施、欧米シッパー3社が応札した。一番札はH S G T社の252-253 ^{ドル} (C&F)となり、最終的にC S CはH S G T社に251 ^{ドル} で発注した。
16日	ニューコアが割増金 米国最大の電炉、ニューコアは16日、冷鉄源の急騰を理由に、04年1月1日出荷分より ^{トン} 20 ^{ドル} の割増金(サーチャージ)上乘せを発表した。製品への転嫁やコスト削減の企業努力ではこれ以上の対応は困難だと判断した。これより前にはワイアートン・スチールが12月15日より1月30日まで ^{トン} 25 ^{ドル} のサーチャージをすでに実施している。
18日	栗川・小棒懇会長、「国際化が課題」 全国小棒懇談会の栗川勝俊会長は18日、懇親会であいさつし「来年は危機感のベクトルを勝ち取ることが大切になる」と発言。「小棒の国際化」を今後の課題に挙げた。
19日	川商とNトレ統合発表 川鉄商事とエヌケーケートレーディングは2004年10月に経営統合を行うことで合意したと発表。8月をめどに「JFEホールディングス(仮称)」を設立し、川商がその傘下に入ったのち、鉄鋼部門とその他の複数の事業に会社分割する。鉄鋼部門はエヌトレと統合し、総合鉄鋼商社として経営基盤強化をはかる意向。
19日	新日鉄君津H S 値上げ 新日本製鉄は、同社君津製鉄所で購入する鉄スクラップの価格について、20日購入分よりH1を700円値上げし、H1指定置き場渡し22,300円とした。
23日	3地区平均18,101円 日本鉄源協会がまとめた12月3週の関東、中部、関西の3地区平均鉄スクラップのモニター価格(H2、炉前)は、前週比385円高の18,101円に続伸し18,000円を突破した。
24日	POSCO、新断ちとH S を25,500円で発注 POSCOは24日、日本の新断ちとH S を調達する目的で競争入札を実施し、これに日本商社6-7社が25,500-27,000円(C&F)で応札した。POSCOは25,550円でカウンタービッドし、同価格で日本商社など4社に発注した。

< 税関別 > 日本の鉄鋼半成品の輸出実績(2003年11月)

港名	国名	2003年11月			2003年1-11月		
		MT	1,000円	単価(円)	MT	1,000円	単価(円)
720711100:鉄または非合金鋼のピレット(炭素0.25%未満、)							
新潟	合計	-	-	-	2,049	55,801	27,240
	韓国	-	-	-	2,049	55,801	27,240
横浜(本関)	合計	394	12,445	31,599	8,108	238,058	29,363
	韓国	394	12,445	31,599	8,098	237,317	29,307
	タイ	-	-	-	10	741	74,100
千葉	合計	6,236	169,797	27,227	110,901	3,062,840	27,618
	韓国	6,236	169,797	27,227	86,659	2,413,554	27,851
	中国	-	-	-	114	2,341	20,478
	台湾	-	-	-	11,788	309,720	26,273
	ベトナム	-	-	-	12,339	337,225	27,329
木更津	合計	11,661	350,515	30,059	87,221	2,583,762	29,623
	韓国	-	-	-	32,427	939,933	28,986
	台湾	-	-	-	20,030	590,154	29,463
	ベトナム	11,661	350,515	30,059	34,764	1,053,675	30,309
鹿島	合計	-	-	-	76,513	2,049,973	26,792
	韓国	-	-	-	12,752	346,576	27,178
	中国	-	-	-	41,916	1,139,594	27,187
	台湾	-	-	-	21,845	563,803	25,810
塩釜	合計	-	-	-	4,228	147,423	34,869
	韓国	-	-	-	4,228	147,423	34,869
石巻	合計	-	-	-	11,041	305,461	27,665
	中国	-	-	-	11,041	305,461	27,665
神戸(本関)	合計	5,749	163,683	28,470	19,856	571,458	28,780
	韓国	-	-	-	2,112	53,658	25,406
	台湾	5,749	163,683	28,470	17,744	517,800	29,181
東播磨	合計	1,564	39,268	25,103	18,251	463,823	25,413
	韓国	670	19,202	28,641	4,552	126,876	27,870
	中国	894	20,066	22,449	13,699	336,947	24,597
水島	合計	-	-	-	7,073	251,383	35,540
	韓国	-	-	-	5,320	146,780	27,588
	イギリス	-	-	-	905	53,114	58,664
	アメリカ	-	-	-	848	51,489	60,748
福山	合計	-	-	-	5,752	127,031	22,086
	韓国	-	-	-	5,598	123,894	22,132
	中国	-	-	-	154	3,137	20,423
呉	合計	-	-	-	140	4,966	35,380
	韓国	-	-	-	140	4,966	35,380
大阪(本関)	合計	20,893	634,223	30,356	132,313	4,086,061	30,882
	韓国	20,893	634,223	30,356	88,506	2,657,459	30,026
	台湾	-	-	-	6,500	204,167	31,411
	ベトナム	-	-	-	37,307	1,224,435	32,820
堺	合計	-	-	-	200,757	5,834,620	29,063
	韓国	-	-	-	136,787	4,101,230	29,983
	中国	-	-	-	11,669	325,052	27,855
	台湾	-	-	-	44,590	1,218,156	27,319
	香港	-	-	-	2,959	76,193	25,748
	ベトナム	-	-	-	4,752	113,989	23,990
伏木	合計	-	-	-	32,931	925,172	28,094
	韓国	-	-	-	29,873	832,276	27,860
	中国	-	-	-	3,058	92,896	30,377
名古屋(本関)	合計	-	-	-	5,983	181,382	30,317
	韓国	-	-	-	471	10,797	22,907
	台湾	-	-	-	5,512	170,585	30,950
門司(本関)	合計	-	-	-	2,866	67,016	23,385
	中国	-	-	-	2,798	65,219	23,307
	台湾	-	-	-	68	1,797	26,597
戸畑	合計	-	-	-	23,437	654,209	27,914
	韓国	-	-	-	21,931	619,587	28,251
	中国	-	-	-	1,505	34,622	23,000
宇部	合計	6,650	196,736	29,584	65,405	1,852,520	28,324
	韓国	6,650	196,736	29,584	65,405	1,852,520	28,324
佐世保	合計	-	-	-	4,182	120,879	28,908
	韓国	-	-	-	4,182	120,879	28,908
室蘭	合計	1,532	41,426	27,036	2,241	68,791	30,703
	韓国	-	-	-	505	18,987	37,614
	インドネシア	1,150	26,938	23,424	1,150	26,938	23,424
	アメリカ	382	14,488	37,903	586	22,866	39,039
苫小牧	合計	475	14,325	30,151	11,186	339,905	30,387
	韓国	-	-	-	6,304	186,968	29,659
	台湾	475	14,325	30,151	1,321	39,895	30,203
	ベトナム	-	-	-	3,561	113,042	31,744
石狩	合計	-	-	-	6,199	162,179	26,163
	韓国	-	-	-	2,830	79,957	28,252
	台湾	-	-	-	3,369	82,222	24,409
八戸	合計	-	-	-	14,999	429,911	28,664
	韓国	-	-	-	12,665	351,923	27,787
	ベトナム	-	-	-	2,333	77,988	33,424

(次頁につづく)

港名	国名	2003年11月			2003年1-11月		
		MT	1,000円	単価(円)	MT	1,000円	単価(円)
720711900:鉄または非合金鋼の半成品(ピレットを除く。炭素鋼0.25%未満、)							
横浜	合計	-	-	-	7	753	106,809
	マレーシア	-	-	-	7	753	106,809
水島	合計	-	-	-	638	14,082	22,072
	韓国	-	-	-	638	14,082	22,072
福山	合計	-	-	-	5,470	136,937	25,034
	韓国	-	-	-	5,470	136,937	25,034
呉	合計	1,413	46,284	32,749	12,699	379,759	29,905
	韓国	1,413	46,284	32,749	12,493	374,253	29,958
	台湾	-	-	-	206	5,506	26,715
大阪(本関)	合計	-	-	-	51	1,725	33,824
	中国	-	-	-	51	1,725	33,824
堺	合計	-	-	-	133	2,461	18,500
	中国	-	-	-	133	2,461	18,500
室蘭	合計	2030	38747	19,087	5,330	99,210	18,614
	インドネシア	2030	38747	19,087	5,330	99,210	18,614
720712100:鉄または非合金鋼のスラブ(炭素0.25%未満、)							
川崎	合計	-	-	-	95	3,513	36,917
	ベルギー	-	-	-	95	3,513	36,917
千葉	合計	-	-	-	62,608	1,574,186	25,144
	韓国	-	-	-	62,608	1,574,186	25,144
木更津	合計	-	-	-	40,809	1,175,393	28,802
	台湾	-	-	-	40,809	1,175,393	28,802
東播磨	合計	-	-	-	2,631	61,294	23,301
	韓国	-	-	-	59	1,368	22,999
	中国	-	-	-	2,571	59,926	23,308
水島	合計	45,860	1,064,687	23,216	325,181	8,127,856	24,995
	韓国	45,860	1,064,687	23,216	315,314	7,896,131	25,042
	中国	-	-	-	5,200	124,748	23,990
	台湾	-	-	-	4,500	103,432	22,985
	ベトナム	-	-	-	167	3,545	21,228
福山	合計	9,832	221,012	22,480	168,888	3,993,018	23,643
	韓国	9,832	221,012	22,480	76,091	1,819,963	23,918
	中国	-	-	-	173	3,529	20,426
	台湾	-	-	-	47,188	1,081,986	22,929
	ベトナム	-	-	-	15,523	356,988	22,997
	タイ	-	-	-	5,275	105,963	20,088
	アメリカ	-	-	-	24,637	624,589	25,352
大阪(本関)	合計	-	-	-	980	39,191	40,003
	台湾	-	-	-	980	39,191	40,003
堺	合計	-	-	-	2,993	76,065	25,411
	韓国	-	-	-	1,310	29,291	22,361
	中国	-	-	-	1,683	46,774	27,784
和歌山	合計	64,932	1,548,281	23,845	566,531	15,168,102	26,774
	台湾	64,932	1,548,281	23,845	566,531	15,168,102	26,774
720712900:鉄または非合金鋼の半成品(スラブを除く。炭素0.25%未満、)							
東京(本関)	合計	-	-	-	117	155,185	1,326,368
	ドイツ	-	-	-	5	9,615	1,923,000
	フィンランド	-	-	-	14	17,190	1,245,652
	アメリカ	-	-	-	98	128,380	1,307,332
横浜(本関)	合計	-	-	-	0	705	5,300,752
	チェコ	-	-	-	0	705	5,300,752
水島	合計	-	-	-	426	10,003	23,500
	韓国	-	-	-	426	10,003	23,500
大阪(本関)	合計	-	-	-	1	2,186	3,661,642
	ベトナム	-	-	-	1	2,186	3,661,642
関西空港	合計	-	-	-	1	689	1,081,633
	タイ	-	-	-	1	689	1,081,633
名古屋(本関)	合計	-	-	-	0	899	7,078,740
	香港	-	-	-	0	899	7,078,740
720719000:鉄または非合金鋼の半成品(炭素0.25%未満、)							
成田	合計	-	-	-	0	533	1,480,556
	アメリカ	-	-	-	0	533	1,480,556
宇都宮	合計	-	-	-	6	563	89,922
	タイ	-	-	-	6	563	89,922
水島	合計	-	-	-	10	850	87,359
	台湾	-	-	-	10	850	87,359
堺	合計	-	-	-	305	7,310	23,997
	中国	-	-	-	305	7,310	23,997
名古屋(本関)	合計	-	-	-	0	2,959	23,672,000
	香港	-	-	-	0	2,959	23,672,000
720720100:鉄または非合金鋼のピレット(炭素0.25%以上)							
横浜(本関)	合計	2,737	86,480	31,600	16,232	496,815	30,608
	韓国	2,737	86,480	31,600	13,168	399,879	30,368
	ベトナム	-	-	-	3,064	96,936	31,638
千葉	合計	-	-	-	50,383	1,431,592	28,414
	韓国	-	-	-	78	1,828	23,400
	中国	-	-	-	5,033	154,069	30,614
	台湾	-	-	-	45,273	1,275,695	28,178
木更津	合計	-	-	-	11,816	352,754	29,854
	韓国	-	-	-	3,899	112,518	28,855
	台湾	-	-	-	7,917	240,236	30,346

(次頁につづく)

港名	国名	2003年11月			2003年1-11月		
		MT	1,000円	単価(円)	MT	1,000円	単価(円)
塩釜	合計	-	-	-	15,213	438,600	28,830
	韓国	-	-	-	12,129	350,129	28,867
	台湾	-	-	-	3,084	88,471	28,687
石巻	合計	-	-	-	1,090	28,925	26,543
	中国	-	-	-	1,090	28,925	26,543
神戸(本関)	合計	-	-	-	4,897	145,921	29,796
	台湾	-	-	-	4,897	145,921	29,796
姫路	合計	-	-	-	121	4,008	33,245
	台湾	-	-	-	121	4,008	33,245
東播磨	合計	888	26,214	29,508	16,160	457,616	28,317
	韓国	888	26,214	29,508	8,906	278,516	31,273
	中国	-	-	-	7,254	179,100	24,689
水島	合計	-	-	-	8,194	230,239	28,098
	韓国	-	-	-	8,194	230,239	28,098
呉	合計	-	-	-	2,036	54,580	26,808
	韓国	-	-	-	2,036	54,580	26,808
大阪(本関)	合計	-	-	-	34,445	997,863	28,970
	韓国	-	-	-	29,277	859,668	29,364
	中国	-	-	-	4,866	129,620	26,638
	台湾	-	-	-	302	8,575	28,372
堺	合計	1,718	43,723	25,449	16,487	418,094	25,359
	韓国	-	-	-	3,012	86,754	28,807
	中国	1,718	43,723	25,449	6,678	160,081	23,972
	台湾	-	-	-	6,656	167,844	25,219
	ベトナム	-	-	-	142	3,415	23,985
戸畑	合計	-	-	-	528	10,427	19,730
	中国	-	-	-	528	10,427	19,730
宇部	合計	5,330	169,768	31,854	121,656	3,611,875	29,689
	韓国	3,699	115,624	31,261	109,752	3,236,525	29,490
	台湾	1,631	54,144	33,200	11,905	375,350	31,530
佐世保	合計	-	-	-	3,251	90,780	27,920
	韓国	-	-	-	3,251	90,780	27,920
室蘭	合計	-	-	-	16,334	381,551	23,359
	韓国	-	-	-	2,149	44,268	20,600
	中国	-	-	-	2,153	44,729	20,774
	ベトナム	-	-	-	11,835	284,629	24,050
	アメリカ	-	-	-	198	7,925	40,127
苫小牧	合計	5,522	166,504	30,151	53,838	1,492,668	27,725
	韓国	-	-	-	19,228	540,860	28,128
	台湾	5,522	166,504	30,151	23,147	650,083	28,086
	ベトナム	-	-	-	11,463	301,725	26,322
石狩	合計	-	-	-	17,713	489,230	27,619
	韓国	-	-	-	15,201	427,660	28,134
	台湾	-	-	-	2,513	61,570	24,505
八戸	合計	-	-	-	665	19,637	29,551
	韓国	-	-	-	448	12,387	27,674
	ベトナム	-	-	-	217	7,250	33,424
沖縄支署	合計	-	-	-	20,382	551,944	27,080
	中国	-	-	-	10,109	266,681	26,382
	台湾	-	-	-	10,273	285,263	27,768
720720200：鉄または非合金鋼のスラブ(炭素0.25%以上)							
東播磨	合計	-	-	-	3,188	92,980	29,166
	中国	-	-	-	3,188	92,980	29,166
大阪(本関)	合計	-	-	-	850	22,907	26,953
	中国	-	-	-	850	22,907	26,953
戸畑	合計	-	-	-	40,667	993,380	24,427
	台湾	-	-	-	40,667	993,380	24,427
720720900：鉄または非合金鋼の半成品(ピレット・スラブを除く。炭素0.25%以上)							
東京(本関)	合計	-	-	-	0	412	4,382,979
	香港	-	-	-	0	412	4,382,979
酒田	合計	0	501	1,616,129	1	1,611	1,998,759
	フィリピン	0	501	1,616,129	1	1,611	1,998,759
神戸(本関)	合計	-	-	-	3	570	186,275
	タイ	-	-	-	3	570	186,275
姫路	合計	-	-	-	735	59,134	80,467
	韓国	-	-	-	2	447	235,263
	台湾	-	-	-	733	58,687	80,066
東播磨	合計	-	-	-	799	20,216	25,297
	中国	-	-	-	799	20,216	25,297
水島	合計	-	-	-	2,046	58,020	28,357
	韓国	-	-	-	2,046	58,020	28,357
福山	合計	-	-	-	53,814	1,744,800	32,423
	韓国	-	-	-	53,814	1,744,800	32,423
呉	合計	1,868	58,565	31,348	48,353	1,403,984	29,036
	韓国	1,868	58,565	31,348	33,526	980,352	29,242
	中国	-	-	-	8,676	251,571	28,996
	台湾	-	-	-	6,151	172,061	27,971
大阪(本関)	合計	-	-	-	421	11,162	26,490
	中国	-	-	-	421	11,162	26,490

(次頁につづく)

港名	国名	2003年11月			2003年1-11月		
		MT	1,000円	単価(円)	MT	1,000円	単価(円)
和歌山	合計	6	381	62,954	1,229	42,803	34,823
	韓国	-	-	-	836	23,082	27,599
	台湾	-	-	-	232	8,883	38,332
	ニュージーランド	6	381	62,954	161	10,838	67,285
名古屋(本関)	合計	-	-	-	1	222	252,273
	ベトナム	-	-	-	1	222	252,273
清水	合計	-	-	-	0	424	1,218,391
	インドネシア	-	-	-	0	424	1,218,391
室蘭	合計	-	-	-	10,832	207,630	19,167
	中国	-	-	-	5,350	100,580	18,800
	ベトナム	-	-	-	5,482	107,050	19,526

(出所:財務省)

- : 横断面が長方形(正方形を含む)のもので幅が厚さの2倍未満のもの
- : 横断面が長方形のもので、幅が厚さの2倍以上のもの
- : 横断面が長方形(正方形を含む)のものを除く

米国の石炭コークス需給逼迫が深刻化

= 原料炭調達できず US スチールが不可抗力宣言

米国における石炭コークス需給の逼迫が深刻化してきた。原料となる低揮発分(LV)強粘結炭が手当てできないことから、同国の大手コークス生産者であるUSスチール社が2004年に入りコークス生産を大幅に削減したためである。

USスチール社のコークス生産を減らしたのは、同社にLV強粘結炭を供給していたウエスト・バージニア州ピナクル(Pinnacle)炭鉱で昨年9月に火災事故が発生し、同炭鉱からの石炭供給が受けられなくなったからである。

USスチール社は昨年9月以降、豪州などLV強粘結炭を緊急輸入するなどしてコークス炉の操業率を落とさずにきたが、ここへきてLV強粘結炭の確保が困難になったことから、コークス生産の大幅削減に追い込まれたようだ。

USスチール社はペンシルバニア州クレアトン(Clairton)に北米最大のコークス炉(コークス年産能力は400万トン/年)を保有している。同コークス炉で生産されたコークスは自社のゲイリー(Gary)製鉄所のほか、ルーージュ・スチール(Rouge Steel)やISG、Weirton Steelなど他の製鉄会社にパージで出荷されている。

USスチール社は先ごろ、原料炭不足によってコークス出荷を継続できなくなったとして、フォース・マジュール(不可抗力)を宣言している。ただUSスチール社はフォース・マジュールの宣言後も、各需要家に対し少量ながらコークス供給を継続しているもようである。

しかしUSスチールからコークス供給を削減された需要家は、高炉の操業を維持するためには、価格を度外視してでも中国や日本からコークスを輸入せざるを得ない。事実、これら需要家は中国や日本から冶金用コークスを緊急に輸入しようとしているようだ。

世界的なコークス需給の逼迫を背景に、中国産や日本産コークス輸出価格が高騰しているが、米国の製鉄会社が中国や日本などからの輸出を拡大すれば、コークス輸出価格は更に上昇する公算が大きい。
(宮元)

JCD など日本側出資者が米国 LAXT から撤退

= LAXT 株式の総てをオックスポーに無償譲渡

米国ロサンジェルス港石炭ターミナル(LAXT)の株式を保有する日本出資者が、保有するLAXT株式を総てオックスポー・カーボン・ミアラルズ社に無償譲渡し、LAXTから撤退することが固まった。

石炭資源開発(JCD)など日本側企業とオックスポー社との間で昨年末に、LAXT株式の無償譲渡に関する契約が締結されたもの。他の株主から異論が出なければ、2ヶ月間の猶予期間を経た上で、同契約は発効する。

またLAXT株式を15%保有するロサンジェルス港湾局(POLA)を除く米国側企業も、保有するLAXT株式の総てをオックスポー社に無償譲渡するもようである。従ってオックスポー社は最終的に、LAXTの株式を85%所有する見通しである。
(宮元)

海光企業、日本H2を236ドル前後(C&F)で調達

= 16日の関東鉄源輸出向け販売入札に関心

台湾の高雄にある海光企業は1月1週、日本商社からH2をトッ当たり236ドル前後(C&F、以下同じ)で調達した模様である。数量は6,000トッで2月積みとなる。

日本の台湾向け成約は、12月4週にH2がトッ当たり228ドル前後で成約され年越ししたが、その後も相場の上昇基調は続いており、年明けには235ドル前後に跳ね上がった。

海光企業の今回の買い付けは、これと前後するものと見られ、海外売りマーケットは一本調子で上昇している。

現在、日本から台湾までのフレートは関東からの5,000トッ級でトッ当たり24-25ドル前後となるなど、依然として高騰している。

海上運賃の値上がりや円高米ドル安の為替レートを考慮しても、日本の台湾売り相場は「前回の関東鉄源の販売価格をすでに上回っている」(扱い流通筋)とされ、FAS 20,100-20,310円の価格レベルをすでに超え始めるなど、続伸している。

こうした中、16日には関東鉄源協同組合の輸出向け販売入札が控えており、扱い流通筋では前回価格を上回るとの予想が圧倒的に多い。

扱い流通筋では、16日の入札結果を見極めるため、積極的なオファーを控える姿勢を見せ始めており、結果によっては日本の海外売り相場は一段高が進みそうだ。

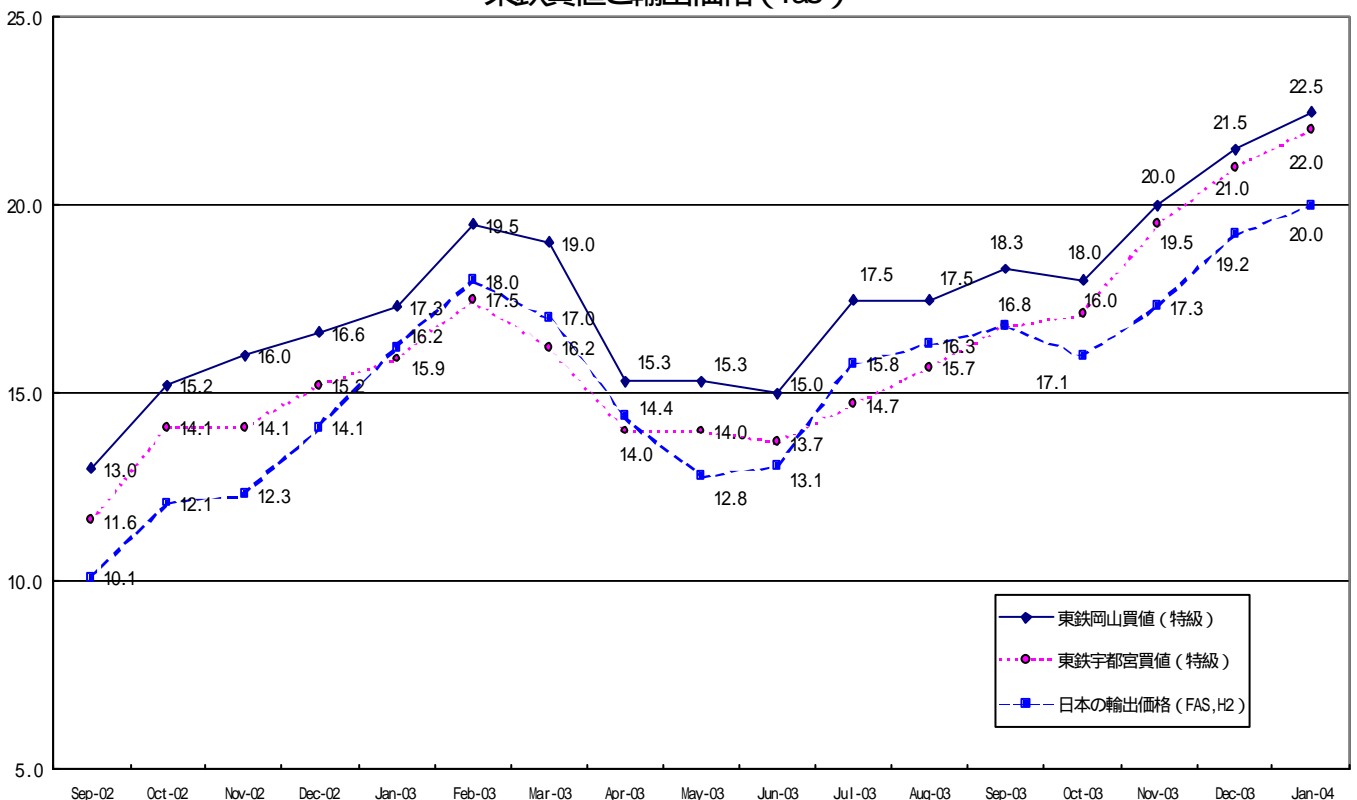
現行の関東湾岸FAS価格は内航船向けで20,000円を超えており、輸出向けもこれに追随するように一部で20,000円を超え始めている。

13日に台湾の中国鋼鉄が実施したボーナス・スクラップ購入入札では応札が298ドルに跳ね上がるなど、相場は先高と見る向きは多く、こうした海外相場の値上がりが日本の国内相場に与える影響を懸念する声も強まっている。

(天野)

東鉄買値と輸出価格(fas)

単位:1,000円



CS C、ボーナス入札は出会うはず

= H S G T社の応札価格 298ドルに対し調達を断念

台湾の高炉一貫メーカー、中国鋼鉄が13日に実施したボーナス・スクラップの調達を目的とした競争入札は、応札はH S G T(ヒューゴ・ニュー・シュニツァー・グローバル・トレード)社だけにとどまり、価格は300ドル目前に迫るボーナス・スクラップト、当たり298ドル(C & F、以下同じ)となったことから、CS Cではこの高値を嫌い、今回は流札とした模様である。

アメリカでは、年明け1月5日付けコンポジット価格が12月4週比7.67ドルアップし166.17ドルに続伸するなど、引き続き需給タイトが鮮明なうえ、先高感が根強い。こうした中、米国シッパーは玉不足の状態が続いており、「応札はあまり集まらないのではないか(扱い流通筋)との事前観測も聞かれていた。

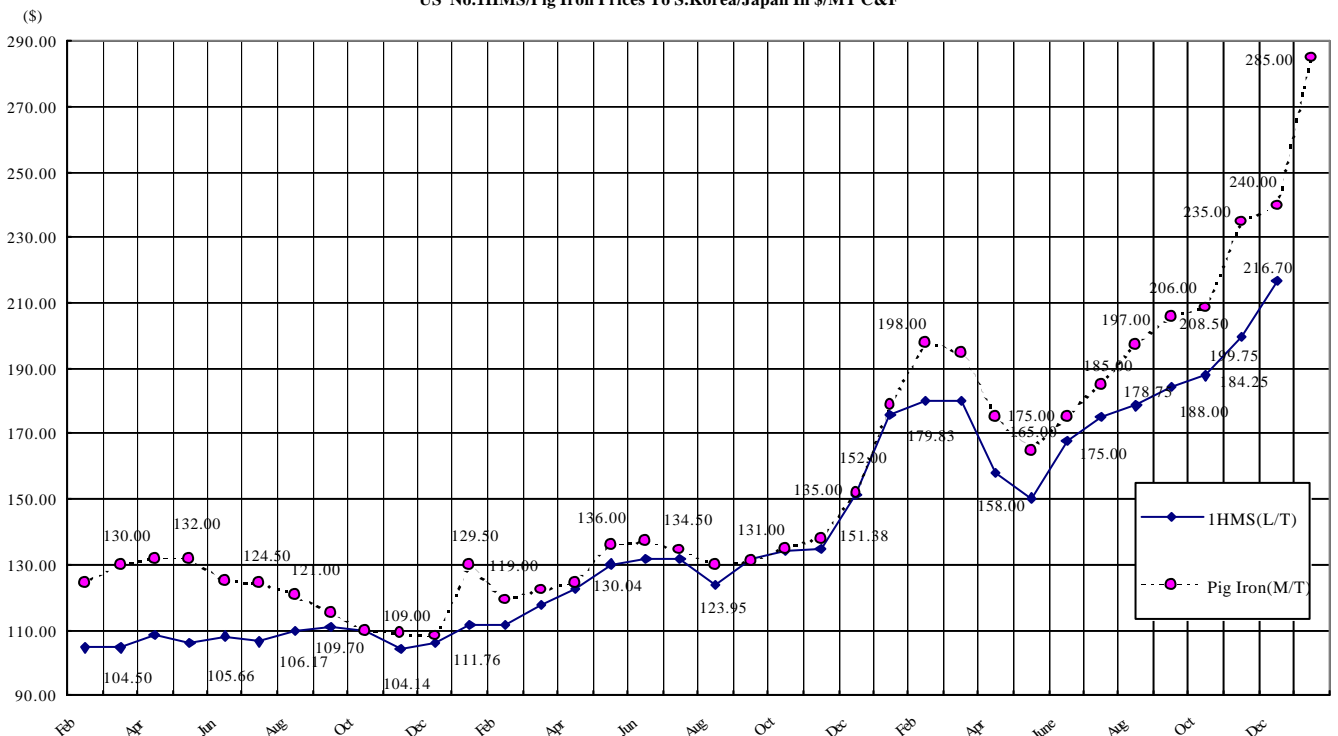
結果は、こうした見方を裏付けるように、米国のH S G T社のみへの応札にとどまり、欧州勢の応札はなかった。さらに、H S G T社の応札価格は298ドル(No.1 H M Sは288ドル)前後と驚異的な高値であった模様である。大方の予想を大きく超える価格レベルに、関係者には大きな衝撃を持って受け止められたようだ。

このため、CS Cでは30,000-33,000トンのボーナス・スクラップ(最大20%のNo.1 H M Sを含む)を調達する意向だったが、300ドル目前に迫るオファー・レベルに調達の断念を余儀なくされた模様である。

これまでの入札結果を辿ると、10月2日の入札では1番札は199.75ドルと200ドルに迫り、同価格で発注された。11月4日の入札では1番札219ドルへと上昇し、215ドルでカウンターしたが失敗に終わっている。CS Cは25日に仕切直しで再入札を実施し、応札価格は1番札233ドルへ上昇、交渉の結果、230.50ドルで発注された。

12月16日に行われた前回入札では、1番札252-253ドルで応札され、CS Cは最終的に251ドル前後で発注した。今回の応札価格は前回から45-46ドル前後跳ね上がったことになり、応札価格はわずか3ヶ月あまりで100ドル近く暴騰したことになる。(天野)

US No.1HMS/Pig Iron Prices To S.Korea/Japan In \$/MT C&F



ケープ・サイズ船、年明けは記録づくめ

= 1日のTC料10万^{ドル}、南米 - 欧州でボイジで46.50^{ドル}

不定期船市況は一段と強張ってきた。鉄鉱石、石炭を船積みするケープ船のタイム・チャーターレートは1日10万^{ドル}を超え、記録を更新。また、航海用船レートでもブラジル(ポンタ・ダ・マデラ) - ロッテルダム向けで^ト23^{ドル}(160型船)、さらにブラジル(ツバロン) - 中国・天津向けが^ト46.50^{ドル}(140型船)と、いずれもレコードとなっている。

<ケープ船>

韓国船社 Daeyang社は AMBER号(181,864 DWT)をタイムチャーターした。同船の引き渡しを欧州、返船をブラジル経由東アジアとするもので、1日の用船料は102,000^{ドル}。2月1 - 5日に用船を開始する。

ドイツのティッセン・クルップ社はブラジル・リオドセ社のカラジャス鉄鉱石積み出し地ポンタ・ダ・マデラで鉄鉱石16万^トを船積みする PERGAMOS号をロッテルダム向けに^ト当たり23^{ドル}(港湾荷役積み揚げ通算6日間)で決めた。2月10 - 25日に用船を開始する。

香港船主ノーブル・チャート社はブラジル・リオドセ社のイタピラ鉄鉱石積み出し地ツバロンで鉄鉱石14万^トを船積みする AMERICANA号を天津向けに^ト当たり46.50^{ドル}(同スケールロード./15,000^ト)で決めた。2月1-15日に用船を開始する。

イタリア船社コエ&クラリッチ社は HENGSHAN号(169,168 DWT)をタイムチャーターした。同船の引き渡しをフランスのモンワール、返船を大西洋航行後イタリアのケープ・パッセロ、SKAW(デンマーク)とするもので、1日の用船料は100,000^{ドル}。1月21 - 22日に用船を開始する。

コエ&クラリッチ社は XIN・PIAN・HAI号(175,000 DWT)をタイムチャーターした。同船の引き渡しを英国イミンガム、返船を大西洋航路、ケープ・パッセロとするもので、1日の用船料は100,000^{ドル}。1月20 - 30日に用船を開始する。

<パナマックス船>

台湾の中国鋼鉄はブラジルで鉄鉱石7万^トを船積みする SEA・JOY号を高雄向けに^ト当たり34^{ドル}(同40,000^ト/38,000^ト)で決めた。1月23 - 30日に用船を開始する。

<ハンディ・マックス船>

韓国船社パン・オーシャン社は AKMI号(52,300 DWT)をタイム・チャーターした。同船の引き渡しを欧州、返船をブラジル経由東アジアとするもので、1日の用船料は34,000^{ドル}。同船はブラジルで鉄鉄を船積みするものとみられている。

(佐藤)

中国一般炭の1-3月積み出荷が一段と悪化

= 東ソー向け出荷も5割程度が滞る

アジア地域における一般炭需給がひっ迫するなか、一般産業による期近積み石炭の確保が難しくなってきた。特に、中国炭については、内需増の影響で国内価格が輸出価格を上回り日本向けの輸出余力が急激に低下しているため、契約数量すべてを調達するのは困難である。

年間180万^トの石炭を消費している東ソーは消費量の半分を神華炭やエン州炭などの中国炭で賄っている。今年度の消費分については年契約によって全て確保していた。しかし、日本向け中国炭の輸出は昨年末から急速に悪化しており、例え契約を結んでいたとしても、それが契約履行されるかどうかは全くの別問題となっている。同社向け1-3月積み中国炭の輸出についても5割程度が

(次頁につづく)

滞っている状況である。

同社は中国炭の他にインドネシア炭や豪州炭も輸入している。したがって、中国炭の代替需要としてこれらの石炭を調達する手もある。しかし、既報のとおり、インドネシア炭は大雨の影響で対日出荷が悪化しており、同社が1-3月期に必要な量をスポット調達できる確証はない。また、豪州炭についてもスポット価格が急騰し、フレート高もあって代替需要としては考えにくい。このため、同社としてはなんとでも中国炭を確保したいところだ。

同社は2004年度の石炭消費量も180万ト内外になると見込んでいる。来年度についてもアジア地域の一般炭マーケットは依然タイトな状況が続くと予想されるため、同社としては取引数量の確保を急ぎたいところである。しかし、1-3月積み石炭調達の問題を解決しない限りは、来年度の交渉を本格的に始めることはできない。

このような状況のなか、同社は石炭サプライヤーに対して輸出余力以上に“輸出意欲”を望んでいる。(東田)

2003年11月のステンレス鋼材の輸入実績

= 数量6,965トと減少、1-11月では8.5万ト

鉄鋼連盟が財務省の輸入統計をベースに纏めた2003年11月および1-11月のステンレス鋼材の輸入量は別表の通りである。

これによると11月の輸入量は6,965ト、輸入金額は1,552.7万米ドルであった。数量は前月(10,238ト)の較べ32.0%減、ただ、前年同月比では13.5%増であった。1-11月期の輸入累計は85,198トで前年同期比20.3%増である。

11月の韓国からの輸入は5,826トで前月に較べ30.0%減、前年同月比では24.9%の増加である。韓国ポスコ社が今春ステンレス鋼の溶解設備を増強したため対日輸出量は増加の方向にある。

(斉藤)

(別表) ステンレス鋼々材の輸入推移

(数量=MT、金額=CIF 1,000 \$)

	合 計		韓 国		台 湾		中 国	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
1998年	62,064	125,413	41,332	-	2,137	-	300	-
1999年	92,837	161,476	70,267	-	6,116	-	268	-
2000年	120,376	252,995	92,622	167,620	4,839	9,329	760	2,033
2001年	129,108	228,901	99,665	145,545	5,674	9,189	748	2,399
2002年	78,099	142,919	59,300	85,859	2,689	5,071	693	1,986
2003年1-11月	85,200	168,730	65,566	109,435	4,095	8,514	1,689	3,980
2002年								
1月	8,594	14,010	6,111	8,164	468	724	47	131
2月	5,425	9,099	4,125	5,243	96	151	13	29
3月	7,129	11,748	5,883	7,383	155	322	77	193
4月	6,906	10,753	5,727	7,298	86	176	79	202
5月	5,455	10,112	3,864	5,480	292	509	84	186
6月	7,335	11,657	5,839	9,852	107	219	6	41
7月	6,149	11,292	4,799	6,873	127	326	86	237
8月	4,163	10,105	2,782	4,516	117	271	64	173
9月	5,982	12,978	4,096	6,717	336	666	57	192
10月	7,567	14,706	5,731	8,540	352	611	71	258
11月	6,139	11,879	4,665	7,230	274	552	62	209
12月	7,256	14,580	5,678	8,563	279	544	47	135
2003年								
1月	7,632	14,379	5,058	8,063	824	1,337	50	169
2月	6,070	11,299	4,664	7,439	341	645	40	109
3月	7,243	13,087	5,368	8,298	346	640	73	173
4月	5,848	12,573	4,192	6,968	307	709	177	457
5月	7,246	15,267	5,275	8,957	411	878	88	302
6月	7,662	15,351	5,770	10,047	240	542	265	541
7月	8,578	16,992	6,625	10,866	428	869	112	262
8月	9,486	17,658	7,958	12,495	168	441	237	478
9月	8,232	16,235	6,522	10,846	356	774	299	629
10月	10,238	20,362	8,308	14,259	524	982	133	416
11月	6,965	15,527	5,826	11,197	150	697	215	444

台湾電力による瀝青炭スポット入札の結果判明

= 落札価格は前回よりも6.58ドル上昇

台湾電力は14日、1月7日締め切りで実施した瀝青炭の再入札(Bid No.TPC9302-retender)の結果を明らかにした。

それによると今回は、入札数量94万5千ト(パナマックス型船15航海)のうち25万2千ト(同4航海)をインドネシア炭が落札した。残り69万3千ト(同11航海)はキャンセルとなった。

エバリュエーション後の平均落札C&F価格はUS58ドルとなり、前回入札よりもUS6ドル58セント上昇した。

入札結果の詳細は別表のとおり。

(東田)

Shipment No.	Successful Offeror	Origin	Quantity (+10%)	As Offered C&F (US\$/MT)	Eva. C&F (US\$/MT)
1	Cancelled				
2	Pt Anugerah Bara Kaltim	Indonesia	63,000	47.25	58.00
3	Cancelled				
4	Cancelled				
5	Cancelled				
6	Cancelled				
7	Cancelled				
8	Cancelled				
9	Cancelled				
10	Glencore International AG	Indonesia	63,000	46.22	58.00
11	Pt Anugerah Bara Kaltim	Indonesia	63,000	47.25	58.00
12	Cancelled				
13	Cancelled				
14	Cancelled				
15	Glencore International AG	Indonesia	63,000	46.22	58.00
Total/Average (TPC9302 retender)	Total/Average (A)		252,000	46.74	58.00
	Indonesia/Average		252,000	46.74	58.00
	China/Average		0	-	-
Previous Tender (TPC9302)	Total/Average (B)		315,000	42.55	51.42
	A-B		-63,000	4.19	6.58
	A/B(%)			9.8	12.8

大阪商品取引所のNi価格(1月14日)

ニッケル	平成16年1月14日 (単位: kg)						1/13 9,813
	1月限	3月限	5月限	7月限	9月限	11月限	
前日大引け	1,711	1,759	1,766	1,732	1,773	1,739	2,539
前場 第1節	1,603	1,699	1,706	1,672	1,713	1,679	246
前場 第2節	1,603	1,699	1,706	1,672	1,713	1,679	326
後場 第1節	1,603	1,699	1,706	1,672	1,713	1,679	444
後場 第2節	1,603	1,699	1,706	1,672	1,713	1,679	380
後場 第3節	1,620	1,699	1,706	1,672	1,713	1,679	1,447
出来高(MT)	5	5	31	119	823	1,860	2,843

11月のH形鋼地域別・積み出別輸出

721631000 鉄又は非合金鋼のU形鋼(高さが80mm以上のもので熱間圧延、熱間引抜き又は押出しをしたものに限るものとし、更に加工したものを除く。)

[地域別]

単位:千円

国名	2003年11月(US\$1=Yen 109.16)				2003年1-11月(US\$1=Yen 117.09)			
	数量	シェア(%)	円単価	ドル単価	数量	シェア(%)	円単価	ドル単価
TOTAL	4,302	100.0	32	293	121,363	100.0	24	205
(ASEAN)	422	10.0	33	302	24,948	28.9	34	290
(NIES)	2,796	63.0	31	284	87,337	58.3	20	171
(APEC)	3,350	78.7	33	302	109,955	87.5	23	196
R KOREA	914	19.0	29	266	51,151	18.9	11	94
CHINA	20	1.1	75	687	1,028	1.7	47	401
TAIWAN	1,790	42.1	33	302	17,585	19.8	33	282
HG KONG	92	1.9	29	266	10,709	11.0	30	256
VIETNAM	149	2.2	20	183	3,443	3.4	29	248
THAILND	49	2.1	60	550	134	0.3	61	521
SNGAPOR	-	0.0	0	0	7,892	8.6	32	273
MALYSIA	-	0.0	0	0	12,968	13.8	31	265
PHILPIN	45	1.3	40	366	260	2.5	279	2,383
INDNSIA	179	4.4	35	321	250	0.3	41	350
INDIA	229	5.3	32	293	229	0.3	32	273
MALDIVE	-	0.0	0	0	5	0.0	58	495
BAHRAIN	-	0.0	0	0	269	0.3	32	273
SU ARAB	392	9.4	33	302	1,274	1.4	31	265
KUWAIT	-	0.0	0	0	1,227	1.5	35	299
QATAR	-	0.0	0	0	492	0.5	31	265
U ARB E	182	4.4	34	311	4,331	4.9	33	282
CANADA	-	0.0	0	0	153	0.2	39	333
USA	-	0.0	0	0	737	0.9	37	316
GUATMAL	-	0.0	0	0	100	0.2	59	504
EGYPT	-	0.0	0	0	37	0.1	57	487
AUSTRAL	182	4.8	36	330	6,793	9.2	40	342
NEWZELD	77	2.1	37	339	294	0.4	38	325

(出所:財務省)

TEX Energy Report (英文版) を配信中

無料サンプルの申し込みを受付中

アジア各国から寄せられた、エネルギー情勢をいち早く知りたいという強い要望にこたえ、7月1日にTEX Reportがエネルギー英文版“Tex Energy Report”を発売しました。

アジア最大のエネルギー輸入国日本だけでなく、成長著しい中国、韓国、台湾などの最新ニュースとデータを全世界に配信しはじめました。ガス、石油、石炭などエネルギー資源全般をカバー。電力会社・ガス会社の統計も充実しています。需給動向の分析や経営戦略の構築にお役立てください。

弊社が40年来培った実績と信頼をもとに、昨今の原子力停止に伴うエネルギー需給の変化や消費が拡大するLNGの動きなど自信を持ってお届けします。

無料サンプルの申し込みを随時受け付けておりますので、この機会に是非お試しください。

内容:

- ・原油・ナフサ・その他石油製品・LNG・LPG・石炭の市況・需給動向に関するニュース
- ・電力・ガス・石油化学・製鉄会社などの原燃料調達に関する価格動向
- * 日本の貿易統計・経済産業省のエネルギー統計は発表日当日に掲載する。

発行日: 毎週月曜から金曜の午後8時~8時半(日本標準時) * 土日・日本の祝日は休刊

配信方法: Eメール

料金:	6ヶ月間	1年間
1部	1,100USD (132,000円)	2,000USD (240,000円)
2部-5部は1部につき	825USD (99,000円)	1,500USD (180,000円)
6部-10部は1部につき	550USD (66,000円)	1,000USD (120,000円)
11部以上は1部につき	275USD (33,000円)	500USD (60,000円)

* ()内は円建て料金、消費税別途

申し込み・問い合わせ:(株) テックスレポート

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-9

TEL:03-3233-0811 FAX:03-3293-5289

E-mail:energyeng@texreport.co.jp

TEX Energy Report Now Transmitting Free Sample is Available upon Request

In response to strong needs in the Asian countries to have the most vivid and updated information on world energy situations earlier, the TEX Report launched an English version of TEX Energy Report on July 1, 2003.

The new version transmits to all over the world the latest news and data on not only Japan, one of the largest energy importers, but also China, Republic of Korea, Taiwan and so forth showing remarkable economic growth.

Its comprehensive data and news cover all the energy resources including gas, oil, coal and so forth with abundant data on electric utilities and gas companies. We are convinced these will contribute for your in-depth analyses of supply and demand trends in future as well as your creation of operational strategy.

Based on our past records and confidences accorded by our clients through our 40 years experiences, we will be able to supply you with information on changes in energy supply and demand positions such as those resulted from the recent operational suspensions at nuclear power stations in Japan as well as moves of world LNG market trend with expanding demand.

Since we accept anytime your subscription for free sample, please take this opportunity to have a look at our report.

(To Be Continued On Next Page)

Contents

- Latest news on market situation and supply/demand positions on crude oil, naphtha and other oil products, LNG, LPG and coal.
- Trends of prices concerning raw materials procurement by electric companies, gas distributors, petrochemical companies, iron & steel producers and so on.
- Same day publication of energy statistics and trade statistics issued by the governmental organizations of Japan.

Method of Transmission: by e-mail

The time and dates of issue: from 8:00 to 8:30 P.M. (Japanese standard time) from every Monday to Friday. No issue on the Saturday and Sunday as well as the national holiday of Japan.

Subscription per six month

US\$1,100 for one subscription.
US\$825 per one for two to five subscription.
US\$550 per one for six to ten subscription.
US\$275 for one for more than 11 subscription.

Subscription per one year

US\$2,000 for one subscription.
US\$1,500 per one for two to five subscription.
US\$1,000 per one for six to ten subscription.
US\$500 for one for more than 11 subscription.

For subscription and for further information, please contact:

The TEX Report LTD.

2-9 Kanda Nishikicho, Chiyoda-ku, Tokyo

Tel: 03-3233-0811 Fax: 03-3293-5289 E-mail: energyeng@texreport.co.jp

Application form of TEX Energy Report

Regular subscription (Six Months One Year) Sample

*Please tick in the square.

To: Publication Dept. / The TEX Report, Ltd.

Fax No.81-3-3293-5289

We wish to receive TEX Energy Report.

1.Name / Mr.Ms. _____

2.Title : _____

3.Name of Company _____ :

4.E-mail Address : _____

5.FAX No. : _____

6.TEL No. : _____

7.Postal Address : _____

: _____

: _____

: _____

: _____

8.The starting date of E-mail you wish: _____

1月13日付け(13日夜に配信)のE-mail版目次

〔社 告〕

TEX Energy Report(英文版)を配信
TEX Energy Report = Order Form =
エネルギー関係統計の発表日と掲載予定日

〔原 油〕

WTI原油2月限は続伸、前日比0.41ドル高の34.72ドル
= 低在庫でファンは買い
〔通関速報〕12月中旬の原粗油輸入実績
= 輸入単価は20,814円/KL
国内の原粗油輸入価格の推移
〔CFTC〕WTI原油は投機筋の買い越しが拡大
= 前週比10,769枚増の61,356枚
NY/ロンドン石油先物市況(12日)
TAPIX、標準性状(13日)は前日比0.12ドル高の30.97ドル
原油タンカーの市況と成約状況(13日)

〔石 油 製 品〕

三菱化学・住友化学もブタン購入へ
= 3月前半着は20ドル/MTほどブタンが安い
2003年のエチレン生産量が736.7万ト增加到
= 2プラント停止でも稼働高く
日貨協連のインタンク価格62.92円(12月)
シンガポール、割安で補油増える
= シンガポールは172ドル(380cSt)
日本道路公団北陸支社の灯油を31,740円/klで落札
LibraがAspen Oil Brokingに社名変更
〔EIA〕米国ガソリン小売価格は1.560ドル/ガロン
札幌の石油製品価格(1月9日時点)
〔訂正〕2004年エチレンプラント定期修理日程
国内スポット製品(13日): ガソリンは82.5-83.0円/リットルで安定
東工取2月限ガソリン、13日は490円高の29,910円
中部商取2月限ガソリン、13日は770円高の29,800円

〔電 力〕

関電と三菱マテリアルがSOFC1kW級発電システムを開発
= 都市ガスを燃料とした1kW発電に成功
* 関西電力の発電所別燃料受払実績(9月)
9電力の電力供給と出水率(日給電量・最大電力)

〔ガ ス〕

* 日揮がカタールで大型ガス処理プラントを受注
LPGマーケット: 極東は堅調、ペーパーにつられて現物も上昇

〔石 炭〕

中国炭の出荷悪化で一般炭需給が一段と逼迫
= スポット・バイヤーは大幅値上げ受け入れか
ネシア石炭産業の2003年の主な動き
= 今後はキデコ社の株式放出が焦点に
トクヤマの2004年度石炭消費量は190万ト增加到
= 今年度を10~20万ト上回る
ネシア、2003年の石炭生産は1億1970万ト
= 大手石炭会社が積極的に増産進める
ベトナム、2003年の石炭輸出は650万ト增加到
高炉大手4社、11月の会社別・高炉別操業実績
主要石炭輸出国の月別石炭輸出货量推移
アジア主要国の月別石炭輸入量推移
グローバル・コール社の一般炭マーケット情報
= 豪州・南ア炭の売り価格差が1.5ドルに縮小
コーリンク社のIndex値が大幅に続伸
米国、12/27~1/3の石炭生産量は2063万ST
= 前年同期に比べ2.4%増
FISの石炭フレート情報
タイ、11月の石炭輸入量は61万7千ト
* 南アRB港、船舶別石炭積載スケジュール
* 豪州GS港、船舶別石炭積載スケジュール
* 加WS港、船舶別石炭積載スケジュール
* 加リドレー港、船舶別石炭積載スケジュール
* 一般炭スポット・マーケット情報(1/12)
* フレート・マーケット情報(1/12)

〔為 替〕

13日の主な外国為替相場一覧

(注) *はE-mail版のみ掲載